

士魂 福澤諭吉の真実

渡辺利夫著

福澤諭吉は、日本の文明化を説いた欧化主義者というイメージが強い。だが、実際には、もっと多層的で懐の深い思想家だった。

本書は、開発経済学の第一人者でもある著者が、戦後的な福澤解釈と距離を置きつつ、福澤思想を分かりやすく解説した入門書だ。

例えば、福澤が晩年に公表した「ていちゅう丁丑公論」は、西郷

隆盛を「天下の人物」と評価しているが、そこから西郷の士魂に対する深い愛惜の情を読み取っている。

「文明論之概略」は、当時の最優先課題に「独立」を掲げ、「文明」はその手段と論じたが、そこに福澤思想の核心があると見る。

福澤は、ロシアの南下に抗する日英同盟の必要性も早くから論じていた。伶俐な予見力を持った福澤のリアリズムの今日的意義についても、考えさせられる。

(海竜社、1800円) (て)

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 記者 が 選 ぶ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆